

「政策のための科学」推進事業（SciREX事業）の取組内容

参考資料 2
科学技術イノベーション政策における
「政策のための科学」アドバイザー委員会
(第 21 回) R.6.6.18

基盤的研究・人材育成拠点の形成

✓ 科学技術・イノベーション政策に係る人材を育成する教育プログラムを各大学で設置

政策研究大学院大学



- ネットワークのハブとして、政策科学の学問領域の発展やコミュニティ形成を牽引
- エビデンスに基づく政策形成の実践のための指標・手法等を開発する研究を実施
- 拠点間連携プロジェクトの設計に係る調整・とりまとめ、アウトリーチの促進
- 事業全体の成果の発信と、関係者が議論する場の設定

- 科学技術・イノベーション政策の企画・立案・実施・評価・改善を行う能力を有する人材を育成
- 政策のための科学に関する修士課程及び博士課程を設置
- 拠点全体のとりまとめ

大阪大学・京都大学



- 科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）研究を領域の軸とし、学問分野間及び学問と政策・社会の間をつなぐ人材を育成
- 既設の修士課程にプログラムを設置、両大学が連携し、関西地域のニーズや特色を活かす教育研究の推進

東京大学



- 公共政策・工学の領域を軸として、政策形成や科学技術・イノベーション政策研究のための人材を育成
- 既存の大学院修士課程に部局横断型プログラムを設置

九州大学



- 東アジアと地域イノベーションを領域の軸とし、専門領域と政策のための科学をつなぐ人材を育成
- 大学院基幹教育科目としてプログラムを開講

一橋大学



- 経営学・経済学等の社会科学を基盤としつつ、自然科学や工学的知見も取り込んだ領域横断的なイノベーション研究を担う人材を育成
- 博士課程レベルのプログラムを設置

共通・横断的な取組

- 政策関係者や学生向けのコアカリキュラムの作成
→ 政策分析ツールとして「SPIAS」「SciLand Viewer」等を公開。
→ SciREX-WPとして、動向調査等の研究成果を公開。
→ 「政策の科学」を理解するためのコアコンテンツ（論文）を43本公開。
- NISTEP、JST・CRDS、RISTEX、学会等との連携

- 直近3年間のサマーキャンプに参加した学生数：165名
- これまでの科学技術イノベーション研修修了者数：82名
- SciREXセミナー開催回数：48回
- ブラウンバッグセミナー開催回数：16回

- ✓ 令和5月3月までに全拠点の合計で424名がプログラムを修了。修了者は中央官庁や地方自治体、大学等へ就職
- ✓ 政府審議会委員として、政策研究大学院大学の林先生をはじめ、複数の教職員が参画。

共進化実現プロジェクト（令和3～4年度）

✓ 政策への具体的な貢献を目指した研究者と行政官の密な連携による研究を実施

人材

- 博士等に関する情報基盤の充実・強化、人材育成と大学院教育の改革に向けた事例研究
(NISTEP・須藤PJ／人材政策課)

研究開発評価

- 本PJで提案した、研究開発により適したロジックモデルのフォーマットについて、文部科学省におけるEBPMの実践として作成されるロジックモデルの様式例として、省内に配付
(政研大・林PJ／評価・研開法人支援室)

経済社会効果分析

- 科学技術イノベーション政策の経済社会効果分析結果（SPIAS）を様々な機関や行政と議論を実施。（政研大・池内PJ／研究開発戦略課）

将来社会・バックキャスト

- 「将来社会」を見据えたバックキャスト及び研究開発のフォアキャストによる官学共創の研究開発戦略の策定
(大阪大・平川PJ／戦略研究推進室)

イノベーション・エコシステム

- 自立・持続可能なイノベーション・エコシステムの成長過程を分析
(九州大・永田PJ／産学連携・地域進行課)
- 産学連携活動がその他の研究活動に与えるインパクト等の分析結果を国内の学術会議で報告した（政研大・隅蔵PJ／産学連携・地域進行課）

人社連携

- これまでにない、学生・院生を博物館現場で滞在させる取り組み（アントレプレナーインジデンス）を実施。（東京大・城山PJ／官房政策課）

分野推進

- 宇宙デブリの国際ルール形成・標準化に向けた官民連携の取組を検討、国際会議へ提案
(東京大・鈴木PJ／宇宙開発利用課)

- 本PJの研究成果を宇宙技術の開発利用のための人材育成支援活動に関する文部科学省事業への反映を検討中。（東京大・カンタンPJ／宇宙利用推進室）

- 市区町村教育委員会が保有する児童生徒の体格情報を分析、自治体ごとのデータ利活用に係る課題を発見し、政策への含意とした。
(京都大・川上PJ／健康教育・食育課)

- 新型コロナウイルス感染症による暮らしへの影響についての実証分析－オントロジー工学及び経済分析からの接近－
(九州大・諸賀PJ／高等教育企画課)

- ✓ 行政官や研究者に対して日常・試行的な情報収集・分析、課題検討の場やネットワークづくりの機会を提供

基盤的研究

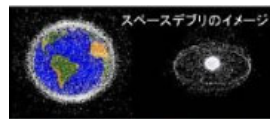
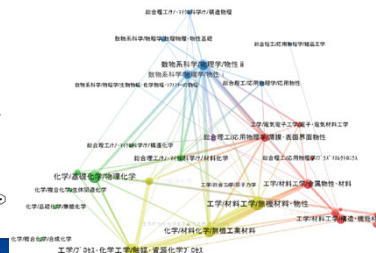
- ✓ 大学院レベルの教育プログラムを中心とした、政策のための科学の**研究基盤、教育拠点の整備を実施**した。

共進化実現プログラム

- ✓ 共進化実現プログラムにて、令和5年3月までに**合計20件の研究者と行政官の協働による研究課題を実施**。研究結果について、**審議会、国際会議や学会等で活用する等、政策形成に活かした**。
- ✓ 行政官と研究者双方で研究課題を実施することで、双方の進化(=“共進化”)を目指し、プログラムを実施。
- ✓ エビデンス形成に際して、互いの立ち位置や価値観の異なる相手との共同作業により、**参加行政官のスキル・リテラシーを向上**させた。
- ✓ 研究者においても、実際の行政プロセスに関与することで政策研究を深化。

イノベーション・エコシステムの誕生

日本における発見と政策課題
永田晃也**



データ・情報基盤

- ✓ 令和4年3月までに**98件の政策科学データ基盤を整備・更新**※。整備したデータは調査研究に使用し、政策にも審議会等で活用。
- ✓ NISTEPにおいて、科技イノベ政策文書検索や博士人材DBなど科学技術・イノベーション政策形成及び調査・分析・研究に活用するデータをリリース。
- ✓ SciREX拠点からも、**研究資金、研究者、論文データを接合したデータプラットフォーム (SPIAS-β) や研究インパクトの分野横断分布やその融合効果等を分析するための可視化ツール (SciLand Viewer) を開発**。

※平成23,24年のデータリリース数は把握不能であったため、含んでいない。



人材育成

※数字は集計中

- ✓ 政策関係者や学生向けの**コアカリキュラムを作成し、各自が強みを持った分野・組織体系を随時アップデート**しながら、教育活動を推進。
- ✓ 行政官等の実務者が「政策のための科学」を理解しやすくするため、事業で実施した研究プロジェクトなどの成果を踏まえた**コアコンテンツ (論文) を開発し**公開。行政官を対象とした「行政官研修」などでも活用されている。
- ✓ 令和5年3月までに全拠点の合計で424名がプログラムを修了。各拠点大学において**修了生のネットワークを構築**し、拠点の教育活動に生かしている。修了生のネットワークは日本の中央省庁や地方公共団体のみならず、**国内の民間企業から海外の研究機関及び公的機関**にまで及んでいる。

【参考：近年のネットワーキング活動の例】

※修了生の内訳は別紙参照

- 直近3年間のサマーキャンプへの参加学生数：145名
- 直近3年間の行政官研修の修了者数：38名
- SciREXセミナー開催回数：45回
- ブラウンバッグセミナー開催回数：9回

(参考) 公募型研究開発 (RISTEX)

- ✓ 平成23年度～令和4年度採択までに55件以上の科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラムを実施し、政策のための科学事業を推進。
- ✓ 老朽化インフラの補修マネジメント政策に関するプロセス構築を行うプロジェクトにて、大阪市全域のコンクリート管渠の劣化状況の予測マッピング技術を施策判断根拠として提示し、政策形成に貢献。
- ✓ マクロ経済モデルを用いて科学技術イノベーション政策の経済成長に対する効果を分析及び評価するための手法を開発し、政府検討会議での成果発表や文科省税制研究会へ協力するなど具体的な政策立案に寄与。
- ✓ 成果について、記事作成やメディアの活用を通じた成果発信を行っている

